

H16_ 公園緑地の安全管理方策に関する調査

調査項目 公園緑地の安全管理方策に関する調査

調査年次 平成16年度(5次調査) 章番号〔 〕

目的

公園に対する社会的な不安が現状に基づいた現実的なものかどうかを明らかにするとともに、路上犯罪に対する社会的な取り組み等を整理し、安全・安心なまちづくりを推進するために公園での防犯等安全管理に対する取り組みの方向性を明らかにする。

概要

調書による管理体制の現状把握を行うとともに、公園立地環境及び犯罪の領域と社会認識をから、現状の課題を整理し、勉強会による意見交換により、対応策等をまとめた。

結果

公園緑地の安全管理方策に関する調書のまとめ

公園で発生した事件などの事例 「放火」「器物の損傷・破損」「死傷」「盗難」の順が多い。

公園緑地の安全方策 「防犯に関する条例」があるのは5都市。「公園の安全管理上特段留意している事項」は、「園内の見通しをよくするために外周部の下枝を払う、株物は目線より低く刈込む、トイレ等周辺の植栽を調整、夜間犯罪防止のため電球保守管理、照明灯周りの植栽剪定、隣接住宅に侵入できないよう樹木剪定や遊具・ベンチの配置移動。

安全管理推進に向け他部局・地域社会・住民等との協働事項 地域づくりを所管する部局との共同パトロール、市民や関係団体等とまちづくり協議会設置し活動、自治会等との話し合い、愛護会等と共同パトロール、「安全推進モデル区域」指定地公園における地域と共同のパトロール。

新聞記事検索にみる公園における犯罪のまとめ

公園で起こる重大犯罪の時間帯は深夜

人が多く集まる場所(繁華街)にある公園で犯罪が多い。

公園の立地環境と犯罪の誘発性

地位性 地域の荒廃性が高いところ、団地、高齢者の多い地域、居住者の密度が低い地域

立地性(公園自体の場所性) 周辺住宅地からの死角、道路より高い場所、人影がなくゴミが散乱するなど悪い管理状態、周辺道路の路上駐車による死角

時間性 人影が少なくなる夕刻から夜

課題

基本的な防犯の意識啓発を行う 全ての犯罪を公園で防止することは考えがたいが、凶悪犯罪である殺人・傷害・性犯罪(痴漢)・略取誘拐等の温床になることは全力を挙げて回避すべきである。

公園の配置・立地環境に関する課題 公園の立地環境要因が犯罪を誘発するか、又は誘発しないまでも利用者に不安感を与える条件であれば、その要因を排除するために努力し、安心感を増すことが必要である。

リスクを回避する仕組みづくり 住民、行政、警察の連携により時間や場所に配慮したパトロールによって、1人遊びの児童への注意等、危険な時間帯をフォローする仕組みが必要である。

公園の利用のルールを明確にしておく必要がある。この場合禁止をルールにするのではなく、利用マナー等の周知や啓発活動等によって利用者が共通認識を持つためのソフトウェアであることが重要である。

調査結果の反映等

平成17年度調査()で、事例収集により今後の対応策の参考資料を作成。

調査項目 公園緑地の安全管理方策に関する調査

調査年次 平成16年度(5次調査) 章番号〔 〕

キーワード

管理運営、安全管理、新聞記事検索、防犯、犯罪、立地環境

事例公園等